

H29 研究の概要

研究主題

主体的に学び，豊かに表現できる子どもの育成

1 研究主題設定の理由

①児童の実態から

本校児童は、素朴で明るく、他を思いやる、あいさつのよい子が多い。また、行動は活発で自発性があり、多角的に追究し、解決しようとする意欲を学校生活全般から受け取ることができる。

しかし、児童の調査などから、自己有用感が低い傾向が分かり、自分の欠点を直して良さを伸ばしたいという気持ちはあるものの、自分のよさについての自覚が薄いことも明らかになっている。保護者もまた、子どもに対して個性を伸ばすことについて十分ではないと感じ、さらに学校生活では、よりよい人間関係を築いて友達と仲よくしてほしいと強く願っている。

学習面では、学習規律を守って前向きに取り組むが、基礎・基本の定着や前学年の既習事項を活用して考えること、自分の考えや理由を説明することが苦手な傾向にある。したがって、互いに話し合う活動において、十分に学びを深めていくことに課題があると考えている。

②昨年度の研究から

昨年度は、これらの実態や願いを受け、児童一人一人が自分のよさを生かし、さらには個性を伸ばして自分らしさを発揮しながら、調和のとれた自己形成が図れるように道徳の時間の授業の実践研究を重ねてきた。その結果、相手を思いやった言動が増え、互いに仲良く学校生活を送る姿が見られるようになってきている。これらが徐々に児童の道徳的実践力につながり、個々のよさを実感し、自信をもって行動できるよう、今年度も継続して研究を進めたい。

また、特別支援教育の考えを生かした“学びのユニバーサルデザイン”の授業改善にも取り組んできている。子ども一人一人が、わかった・できた喜びを実感できるように、全員参加の質の高い授業を目指して、各教科の特性を考えて授業研究を実践してきた。特に言語活動の充実に努めることで、問題解決するために必要な「思考力、判断力、表現力等」を育成し、知識や技能を幅広く活用していく能力が身に付くよう取り組んできた。また、課題となっていた考えの共有化部分に焦点を当て、「問い直し」による効果的な学び合いを生かした共有化の推進や、子どもが問い、子どもたちで問題解決する授業スタイルの確立を目指し、アクティブ・ラーニングを取り入れた新たな学習スタイルを構築し、授業改善を図ってきた。その結果、子ども一人一人が学習課題を主体的に受け止めて、自分なりの考えをもち、協働

的に学習する姿が見られるようになってきている。さらに一人一人の学びの実感と分かった喜びが味わえるよう、「振り返り」部分を大切に改善を進めたい。

そこで、今年度も、道徳や特別活動で個の自己有用感を高め、豊かな人間関係を構築し、よりよく生きる力を身に付けることで学習の基盤をつくることと、学びのユニバーサルデザインや主体的・対話的で深い学びを視点とした授業改善を図り、「わかる・できる」喜びを実感させながら、思考力・表現力を育成していくことの二つを柱とし、課題解決を図りたい。

2 研究の重点

(1) 仮説

①課題やめあてを明確にして学び合う中で、考えを深め表現させたり、振り返りで自己の変容に気付かせることで、わかる・できる喜びを実感することができるであろう。さらには「思考力・判断力・表現力等」の育成が図られ、主体的に学び、豊かに表現できる子どもを育むことができるであろう。

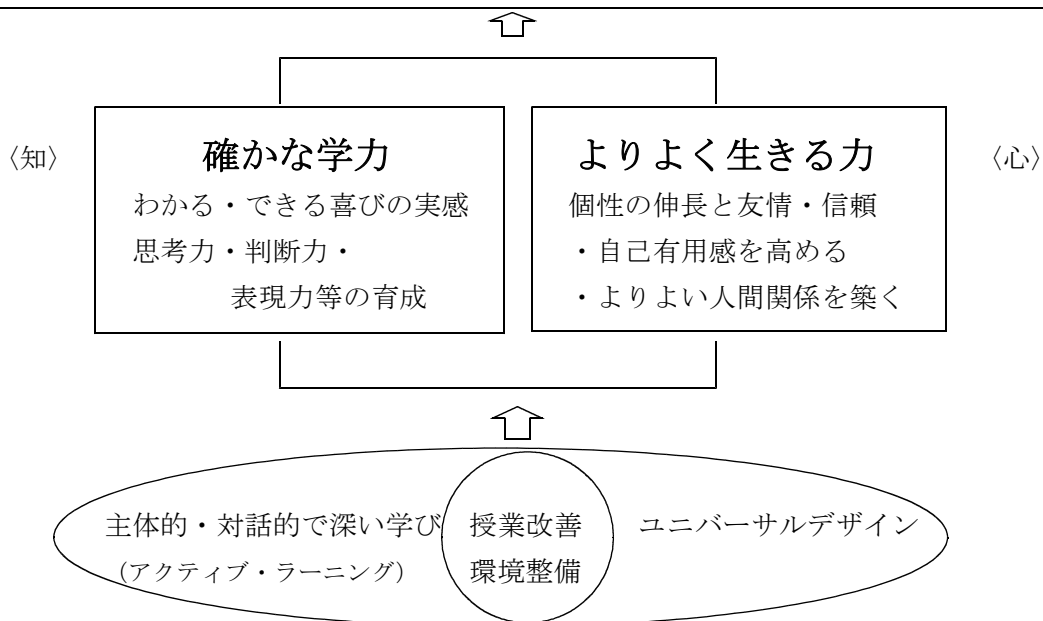
②学習を支える基盤として、道徳や特別活動の時間を充実させ、一人一人が自己を見つめ、他と学び合う心を育むことで、よりよい人間関係を築くことができるであろう。

(2) 目指す子どもの姿と共通実践事項

① 目指す子どもの姿

・自分の思いや考えを伝え合い、主体的・創造的に学び合うことができる子ども

・自分や相手のよさを認め合い、互いに助け合うことができる子ども



② 授業における共通実践事項

I 確かな学力の向上

○授業改善で「思考力・判断力・表現力等」を育成する

(ユニバーサルデザインの視点からの授業改善) 授業の焦点化, 視覚化, 共有化

(アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善) 主体的・対話的で深い学びの実現

①単元及び本時のねらいと身に付けたい力の明確化

「何ができるようになるか」

・明確な課題やめあての設定

学習することでどんな力がつくのか, どうなればゴールなのかゴールの姿を見据えて, 子どもの言葉でめあてを設定する

②課題意識のもたせ方の工夫

「主体的な学び」

興味・関心・意欲を高め, ゴールにつながる課題を設定し, 解決の見通しをもたせる

(知りたい, 考えたい, 解決したいという気持ちをもたせる)

③話合いの場や振り返りの場の充実

話合いの必要性 ねらいにせまる

「対話的な学び」

話合いの方向性 【ひろげる】【くわえる】【しぼる】【つくる】

振り返りの視点 自分の変容がわかる, 身に付けた力を生かす

「深い学び」

④授業とリンクした, より主体的な家庭学習の充実

Aドリルメニュー (基礎・基本) とBチャレンジメニュー (活用) の継続
強調週間 友達や担任以外の先生からのコメント

II よりよく生きる力の充実 (道徳で心を育み, 特活で形に)

○学習を支える基盤として, 一人一人が自己を見つめ, 他と学び合う心を育む

・互いの価値観を認め合える, 相手を尊重し合う学級集団づくり

学級活動で自己有用感を育む

・全教育活動に関わる道徳教育の実践と「道徳の時間」の授業実践研究

別業による計画的な指導

考え・議論する道徳の時間

・子どもの変容の見取り 年間を通じて子どもの変容の記録を積み重ねる

道徳ノート, 道徳シート, 心の成長記録

・道徳コーナーの継続活用 学年部道徳の時間や重点内容項目に関する紹介

心を形にして伝える環境づくり